

平成 18 年 9 月 29 日

鹿児島大学水産学部における構成員（個人）点検・評価に関する外部評価

1. 実施経過と実施手順について

1.1 妥当性

40 回以上の回数を重ね、点検評価委員会、学部運営委員会、教授会等で慎重に審議されており、また、構成員にも構成員評価の趣旨が周知されていると考えられることから、手順等妥当と判断する。

1.2 効率性

構成員評価案の確定まで相当の期間を要しているが、公平に、また、客観的に評価できるよう改善に努められてきたものと考えられ、必要な期間であったと思える。

1.3 効果

構成員点検評価の実施に伴い、構成員の業務への再認識が強まったことが期待される。

1.4 達成度

よく検討されている。

1.5 自立発展性

業務の充実、発展性が期待される。

1.6 その他（自由記述）

実施後、再検討が必要なものが出てきた場合、早めに点検・評価委員会等で十分議論いただき、改善に努めていただきたい。

2. 点検評価の内容について（点検項目、重み付け、集計法などを含む）

2.1 妥当性

多くの項目について、検討が為されており、公平・客観的に評価できるものとなっている。

2.2 効率性

構成員が年度の個人実績をきちんと記入・提出すれば、効率的に点検・評価ができるシステムになっていると考える。

2.3 効果

2.4 達成度

ほぼ、システムとしては満足できるものと考えられるが、実施後の検証を行い、必要なものは改善していくことも重要

2.5 自立発展性

2.6 その他（自由記述）

構成員評価原案は、最終的には学部長が作成することになるが、恣意が入らない統計的分析法となっており、作業は必ずしも学部長がやる必要はないと思われる。ただし、個人情報も含まれるため、学部内の職員が作業することは問題があると思われ、学部長の業務量如何では統計作業は外部委託を考えてもいいのではないかと。

上記の記載内容について、鹿児島大学水産学部における構成員（個人）点検・評価の目的に従い、必要な場合、同学部または同大学内外に対して公表されることに同意します。なお、貴学部で得た資料・情報については、公表しないことを併せて同意いたします。

氏名：